



藤本 宏明 森之宮病院



このたびリハビリテーション科専門医の認定をいただきました、森之宮病院の藤本と申します。平成 17 年に兵庫医科大学を卒業後、大阪大学神経内科に入局し、主に神経疾患診療に携わりました。平成 24 年より森之宮病院の神経リハビリテーション研究部に赴任し、回復期リハビリ病棟で主に脳卒中後リハビリ研修を行いながら、主に「姿勢バランスと大脳皮質活動との関連性」をテーマに研究させていただいています。

リハビリ医療に携われるようになり、機能予後や社会背景を考えることで視野が広がりました。患者さんやご家族の不安を和らげ、その後の生活への橋渡しになるよう、また、現在行っている研究内容を少しでも臨床へ還元できるように努力してまいります。

専門医となり、ようやく自称「神経リハ医」としての第一歩を踏み出せたことを実感しています。臨床・研究どちらも未熟ものですが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



木戸 健介 松下記念病院



このたび専門医の認定をいただきました木戸健介（きどけんすけ）と申します。平成 10 年に京都府立医科大学を卒業し整形外科医として勤務してきました。現在は松下記念病院で骨折の手術や、変形性関節症に対する人工関節全置換術による機能再建などの急性期治療を担当しています。しかし、以前に京都大原記念病院で回復期病棟の病棟医として 3 年間勤務していた事があり、整形外科症例以外にも脳血管障害症例、脳外傷症例、神経疾患症例などを担当する機会も多く、また大腿骨近位部骨折地域連携パスの立ち上げでは、急性期と回復期の立場での臨床経験をいかして参加することができました。こうした経験からリハビリテーションが担当する領域の広大さに興味を持ち日本リハビリテーション医学会に入会させていただきました。皆様には今後ともご指導ご鞭撻のほどいただけますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

第29回日本医学会総会2015関西が開催

和歌山県立医科大学リハビリテーション医学 中村 健

第29回日本医学会総会2015関西の学術講演が、4月11日（土）～4月13日（月）の3日間、国立京都国際会館をメイン会場として開催された。日本医学会総会は明治35年の第1回の開催から4年に1回開催されており、今回が29回目の開催となる。会頭を井村裕夫先生が務め、メインテーマを「医学と医療の改革を目指して－健康社会を共に生きるきずなの構築－」とし、関西2府4県でプレイベントを行うなど、関西の12医科大学/1機関/6医師会が協力し『オール関西』の体制で開催された総会となった。

開会式は、メインホールを埋め尽くす多くの参加者のもと、皇太子殿下もご臨席し行われた。開会式では、皇太子殿下のお言葉もあり、その中で「いかににより多くの人々が健康で長寿を享受できるような社会にするのが問われています。（全お言葉は宮内庁ホームページを参照）」と述べられており、今後の医療の課題をお示し頂いた。開会式に引き続き、山中伸弥教授による開会講演「iPS細胞研究の現状と医療応用に向けた取り組み」が行われた。iPS細胞の現在までの研究開発成果、そして今後の医療応用を含めた展望について話され、多くの医療分野でiPS細胞の利用が実現しつつある事を力強く述べていた。

学術講演では、テーマである「医学」「医療」「きずな」に基づき『20の柱』が立案され、分野や職種を超えた横断的な100を超えるセッションが行われた。20の柱の1つに「リハビリテーションのこれから」が盛り込まれ、『リハビリテーションは進化する：「守る」から「攻める」へ』、『運動器リハビリテーションのこれから（進



歩と展望』、『新しい時代の心臓リハビリテーション：エビデンスと実際』、『有効な中枢性運動麻痺治療方法』の各テーマに関して、3日間に亘り4つのセッションが総勢座長8名演者20名で行われた。近畿地区からは、座長として大阪医科大学の佐浦隆一先生、枚方公済病院の野村隆司先生、演者として和歌山県立医科大学の田島文博先生、国立循環器病研究センターの後藤葉一先生、京都府立医科大学の久保俊一先生、京都府立医科大学の白石裕一先生、兵庫医科大学の道免和久先生（発表順）が務められ、私も演者の1人に加えて頂いた。各セッションともに盛況だったが、特に『運動器リハビリテーションのこれから（進歩と展望）』のセッションでは、会場に入りきれないくらいの聴衆が集まり、リハビリテーション医療へ

の関心の高さが感じられた。どのセッションも今後のリハビリテーション医療の展開や発展のために重要なテーマであり、どの演者の発表も新たな展開や発展を感じる興味深いものであった。

3日間に亘り開催された総会も、井村会頭より「健康社会宣言2015関西」が提言され閉会した。閉会式では、日野原重明先生の記念講演「日本における高齢化と真の健康社会」と京セ

ラ株式会社の稲盛和夫氏の閉会講演「医学と倫理—利他の心で世のため人のために尽くす—」が行われた。日野原先生は、103歳になってなお新しい挑戦を続けており、その力強さに大変驚かされた。また、稲盛氏は医学・医療には技術や知識だけでなく、哲学が必要であり「利他の心」の重要性を示され、大変感銘を受けた。次回、30回日本医学会総会は4年後に名古屋で開催される予定である。

第1回京都リハビリテーション医学研究会学術集会 開催報告

京都府立医科大学大学院 リハビリテーション医学 三上 靖夫

平成26年にリハビリテーション医学に関する研究と教育を目的とした京都リハビリテーション医学研究会が設立されました。それまで10年間活動してきた京都リハビリテーションフォーラムを前身としています。本研究会の第1回学術集会が、久保俊一先生(京都府立医科大学大学院 教授)を会長として、平成27年2月7～8日の2日間にわたりウェスティン都ホテル京都で開催されました。

本学術集会では、テーマを「リハビリテーション医学の基本とトピックス」とし、リハビリテーション領域で日本を代表する先生方にご講演をいただきました。特別講演では日本リハビリテーション医学会理事長の水間正澄先生にご講演をいただきました。7つの記念講演、3つの教育講演、2つのランチョンセミナーでは日本リハビリテーション医学会の役員の方にご講演をいただきました。シンポジウムでは、近畿で活躍されている先生方に超高齢社会におけるリハビリテーションの役割について討論をしていただきました。また、ポスターセッションには、運動器のリハビリテーション、脳血管リハビリテーション、がんのリハビリ

テーション、摂食嚥下のリハビリテーション、内部障害のリハビリテーション、回復期・生活期のリハビリテーション、およびリハビリテーションにおける新しい試みなど幅広い領域から41演題が集まり、活発な議論がなされました。さらに、実践的なハンズオンセミナーとして「ロボットスーツHAL」および「心臓リハビリテーション心肺負荷試験(CPX)」を開催しました。初めてこれらの機器を目にされた先生も多く、実際に触れて理解を深めることができましたと大変好評でした。学術集会の締めくくり近畿地方会、および京都府リハビリテーション教育センターと連携し、「ロボットリハビリテーション」についてこの分野を代表する日本リハビリテーション医学会副理事長の才藤栄一先生、同理事の島田洋一先生にご講演をいただきました。全国から600名をこえる多くの方々のご参加をいただき、成功裏に終えることができました。ご協力いただきました先生方に心より御礼申し上げます。なお、本学術集会のプログラムは研究会のHP上でご覧になれます。 <http://www.kyoto-rehabili.jp/>



会場風景(開会の辞 久保俊一会長)



運営スタッフ一同